

# ダイコン

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋冬ダイコン									○ ⇄ ○	—	—	—
春ダイコン	—	—	○	—	—	—	—	—				
夏ダイコン					○	—	—	—				

## 畑の準備

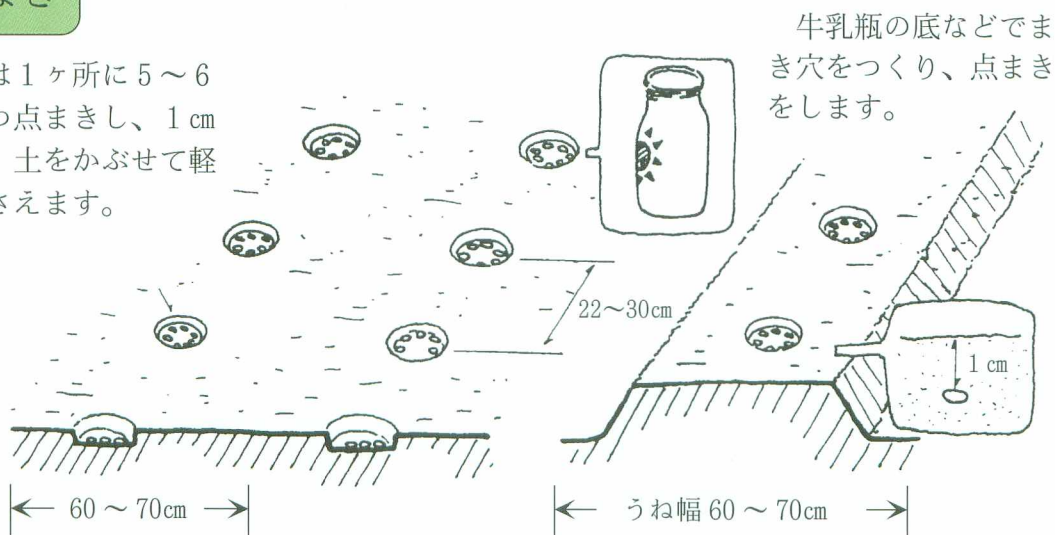


種まきの2週間以上前に苦土石灰を散布して深く耕し、小石など根の生育を妨げるようなものは取り除きます。  
(堆肥は前作に施します。)

種まきの7日前まで、化学肥料を全面に散布して、よく耕しておきます。  
水はけの良い菜園は平畝に、耕土の深いところや水はけの悪い菜園では高畝にして、表面を平らにならしておきます。

## 種まき

種は1ヶ所に5~6粒ずつ点まきし、1cm程度、土をかぶせて軽く押さえます。



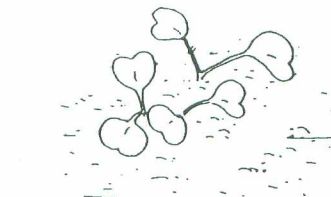
畝の表面を平らにしてから、牛乳ビンの底などを利用して播き溝をつくり、1ヶ所に5~6粒ずつ点まきをします。  
種まき後は、1cmぐらい覆土をして、軽く押さえておきます。

## 間引き

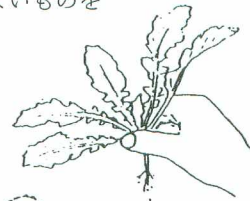
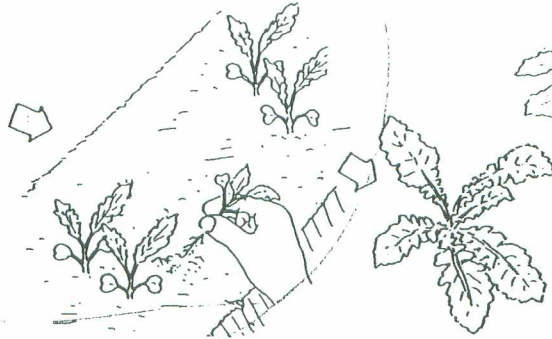
1回目の間引きは、子葉が開いた時に、整形のハート形のものを1ヶ所に3本残します。

2回目は本葉2～3枚の時に、1ヶ所に2本を残します。

3回目は本葉5～6枚の時に、元気のよいものを1本にします。



ハート形のものを残し、丸形、長形のを抜きます。

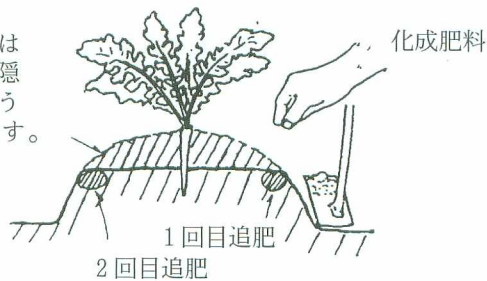


春ダイコンでは越冬前に1ヶ所に3～4本残しておき、2～3月になって、寒さがやわらいでから間引きします。

間引きは非常に大切な作業です。発芽後3回ぐらいに分けて間引きを行い、そのつど追肥と土寄せをしておきます。

## 追肥と土寄せ

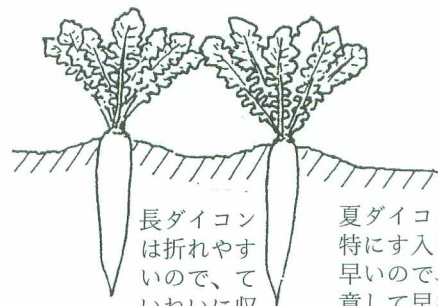
土寄せは株元が隠れるようにします。



化学肥料をうねの肩へ交互に施します。追肥後は軽く中耕して、根元がかくれるように株元へ土寄せをしておきます。

ワラや枝などを立てます。

## 収穫



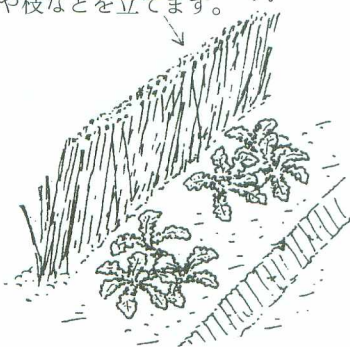
長ダイコンは折れやすいので、ていねいに収穫します。

夏ダイコンは特にす入りが早いので、注意して早めに収穫。間引きしたものもおいしく利用できます。

秋ダイコンは、種まき後60～90日3月まきは90日、夏ダイコンでは50～60日で収穫となります。

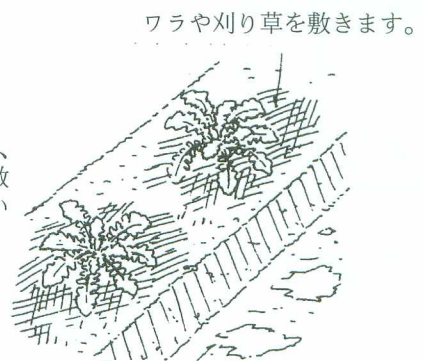
## 防寒

春ダイコンでは、うねの北側にワラや笹、木の枝などを立てて防寒をします。



## かん水

夏ダイコンでは、ワラや刈り草を敷いて、乾燥や強い雨から守ります。



作型によっては、防寒や灌水に注意する必要があります。

乾燥が激しい時はうね間にかん水します。

## コメント(料理)

百科絵で見る家庭菜園 青木 茂之 ひかりのくに株式会社より

1本のダイコンでも葉に近い部分は辛みが少なく、真ん中は一番おいしい味のところです。これらの部位をおろしや煮物、おつゆの具、あえ物に用いるとよいでしょう。先の部分は辛みが強いので、漬け物などに利用するとよいでしょう。